

やどかり祭 特別号

第52回宿舍祭「やどかり 練り歩きなど、学生主体の祭」が未来社会デザイン棟 催しが終日にぎわいを見せおよび平砂学生宿舍エリア た。

にて開催された。新入生を 本誌ではこれら三企画に中心に多彩な企画が行わ 携わった学生たちに取材を、活気に満ちた二日間と 行い、準備の背景や当日に 込めた想いについて紹介する。

今年度は新体制のもと、 祭りの刷新が図られ、模擬 店やステージ企画、御輿の

ゆかたコンテスト

書道部
グランプリ受賞



ジを含めました。

今年の宿舍祭「ゆかたコンテスト」で、初出場ながら見事グランプリに輝いた筑波大学書道部。多くの観客を魅了した圧巻のパフォーマンスの裏側には、メンバーたちの熱い思いと知られざる苦悩があった。今回は興奮冷めやらぬメンバーの代表、柳生康博さんにインタビューを行った。

ゆかたコンテストに出場しようと思ったきっかけは？

「書道パフォーマンス」そのものをより多くの人に知ってもらいたいという思いがありました。また、練習を通じて入部したばかりの1年生と、仲良くする場を作りたいという目的もありました。

準備期間で大変だったことは？

入学して2カ月弱の1年生の予定をすり合わせ、1つのチームとしてよいパフォーマンスができる状態にすることに苦労しました。また、ゆかたコンテスト初出場であったため、書道パフォーマンスをステージでどうきれいに見せるかを1から考える必要がありました。

作品に込めた想いは？

パフォーマンスで書いた「IMAGINE THE FUTURE」という言葉は筑波大学のスローガンから着想を得ており、「筑波大学の良さに改めて気づいてほしい」「大学を盛り上げたい」というメッセージ

舞台に立って感じたことは？

ステージに上がると、夕方の良い雰囲気の中、テニスコートの後ろまでぎゅうぎゅうになるほどの多くの観客がいて、圧倒されました。皆さんのあたたかい声援に鼓舞され、緊張よりも楽しさが勝るステージとなりました。

受賞の感想は？

練習段階から「いかに良いパフォーマンスを提供できるか」をチーム全員で考えてきたことがグランプリという形で認められ、メンバー全員で大きな喜びを分かち合いました。

また、実力のある強豪団体の中でグランプリを奪い取れたことにも、大きな達成感を感じています。

宿舍祭を振り返って御密に仲間へのメッセージは？

投票してくれた観客への感謝を伝えるとともに、他の部活にももっとゆかたコンテストに注目してほしいと思います。そして、来年のゆかたコンテストや雙峰祭でも良いパフォーマンスを提供したいと思っています。



御輿 パフォーマンス



ドキ☆石膏像の ダンスパーティー ～カラフル焼きそばを添えて～

全身を白塗りにし、真っ白な衣装を纏って石膏像の生首を担ぐ学生たち。いかにも芸術専門学聯らしい神輿だが、石膏像の口に吸い込まれていくのは、なんと虹色の焼きそばであった。

やどかり祭において、芸術専門学群（以下、芸専）の神輿企画代表を務めた松下美月さん。今回は、神輿制作の裏側とその苦勞についてインタビューを行った。

デザインが決まるまでの

経緯について教えてください。

芸専ならではのデザインとは何だろうと考えた時に、親の顔より見た石膏像が思い浮かびました。焼きそばの売り出しも進めたかったので、「噺らせてみるか、麵を」と思い、石膏像に麵を噺らせるというデザインに決定しました。

制作で大変だったこと、また

その解決方法を教えてください。

最初は人の集まりが悪くて、有志で30人ほどのオープンチャットを作ったんですけど、実際の作業には3人しか来ないような日が続いたことです。大掛かりな作業がなかなか進まなかったことが大変でした。

代表として毎日作業に顔を出し、オープンチャットで制作の状況を共有したり、立体造形に詳しい人を直接制作に勧誘したりして、最終的には1日10人ほど制作に集まるようになりました。

共同作業を通して各前も知らなかったような子とも仲良くなれて、打ち上げに行くまでになりました。

神輿に込めたメッセージは

何でしょうか。

やきそばを買ってください、ですね。それに加えて、芸専の本気を見せたいという気持ちも強くありました。私はデッサンの試験で入学したわけではないですが、制作経験のある人が動いてくれたので、造形に関して芸専の熱意を見てほしかったです。

芸専の仲間や記事の読者に

一言いただけますか。

（芸専の仲間へ）

至らぬところも多かったですが、一緒に神輿を作ってくれて嬉しかったです。1カ月で仲良くなれたみんながこの先どんな作品を作るか楽しみです。

（読者に）

芸専が集まれば、作品はパワー溢れるものになります。



学生はそれぞれ熱意や人生を賭けた作品を作るので、ぜひそれぞれの個展や芸術祭、雙峰祭に足を運び、パワーを浴びてほしいです。



第52回宿舍祭実行委員会委員長

この度は、第52回やどかり祭(宿舍祭)の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。

昨年踏み出した再スタートの一步を受け継ぎ、私たちは今年、「祭生飛躍く新しく生まれ変わったやど祭り」というスローガンを掲げました。この言葉には、これまでの伝統を大切にしながらも、時代に合わせてやど祭り祭をさらに新しく生まれ変わらせ、未来へ向けて大きく飛躍させたいという強い決意を込めています。

当日は多くの皆様にご来場いただき、笑顔あふれる時間を共に過ごすことができました。地域の皆様やOB・OGの皆様からの温かい励ましに支えられ、委員一同、一層の団結力で駆け抜けることができました。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(寄稿／中山空 知識・情報図書館学類3年)



宿舍祭特別号

2026年9月1日発行

編集長 山下海音

発行人 近藤哲弘

編集委員 石井七菜 春木美璃 横川愛絵 長谷川みさき

福澤史琉 梅林凛人 眞弓璃子 吉岡稜太郎

上田航 盧思橋 高橋奏子

発行 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

広報委員会

<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/>

(publicity@zdk.tsukuba.ac.jp)

編集後記

本記事をご覧ください。くださったことに心より感謝申し上げます。編集長の山下です。今回は一年生を迎え入れてから、初めての記事作成でした。一年生を含めた委員会活動は以前にも増して明るく、活発なものとなりました。インタビュ前の少し緊張した顔、記事の構成を考える真剣な顔。彼らの表情を見ていると、これからの活躍を期待せずにはいられません。彼らのため、委員会のため、私も精進していききたいと思います。

(山下海音)

模擬店



落合カレー

筑波大の初夏を彩る「やどかり祭」。その中でも、ひととき異彩を放ち、圧倒的な存在感を示していたのが「落合カレー」。これは情報メディア創成学類による伝統的な模擬店名物となっている。

今回は情報メディア創成学類1年の酒田優斗さんにお話を伺い、謎多き「落合カレー」の秘密に迫った。

落合カレーとはなんですか？

「落合カレー」は、テレビ番組の「情熱大陸」に落合陽一教授(図書館情報メディア系)が出演されたとき、落合教授がレトルトカレーをストローで飲んでいたことに由来します。それを見た同学類の先輩が宿舍祭での模擬店の商品として「落合カレー」を考案しました。最初の出店は令和5年度のやどかり祭で、それから4年連続で先輩から引き継がれているメ創(情報メディア創成学類)の伝統です。

出店の準備や当日の様子について

詳しく教えてください。

基本的に準備の大半(打ち合わせなど)はLINE上で行っていました。直前に看板の作成などで顔を合わせて作業する機会が一度あったのですが、そのときには準備に携わる全員が様々な会話を交わしながら明るい雰囲気準備を行っていました。

特に力を入れたことはなんですか？

特にカレー選びにこだわりました。味だけでなく、飲みやすさとコストパフォーマンスも両立させるため、10人ほどで試食をして決定しました。クラスメイトの自宅で試食会をしたのですが、みんな入学したてだったので人の家にかかるということ自体とてもワクワクしていましたね。

また、看板やポスター、容器のデザインにも工夫を凝らしました。毎年、カレーを入れる容器にシールを貼って提供していましたが、昨年は1種類だったバリエーションを3種類に増やしたんです。ポスターなどはデザインの得意なクラスメイトが担当してくれました。格好いいと評判がよかったです。

企画を終えた感想を

教えてください。

600食完売したことが嬉しかったです。2日目の営業終了直前で最後の1、2食が残っており、それをすべて売り切ったときの周囲のクラスメイトの笑顔が印象に残っています。

